

## トモエ生活環境の探求と実践（2026・9・29現在）

学校法人創造の森学園札幌トモエ家族幼稚園 園長木村仁

### トモエにおける「人間観察探求」と「共生・共育」の実践

トモエの生活環境の実践は、「人間とは何か」「生きる意味とは何か」を深く見つめ続ける「人間観察探求」をすべての核としています。

#### 1. 「有機生活」の実践探求 ― 次世代へ贈る最高の遺産

- **「有機生活」の真義：**ここで言う「有機生活」とは、有機農法が農薬や化学肥料で規格品の野菜を大量生産するのではなく、自然の力で野菜の育つ力を支えるように、「愛と生命の力を保ち、信じる生活機能」を備えた生き方のことです。
- **未来への遺産：**自分と他者の心を思いやり、愛と生命の力を信じ合える人間が育つ生活環境を創り出すこと。これこそが、大人が子どもたちや未来の社会へ遺すことのできる\*\*「生涯にわたる最高の遺産」\*\*となります。

#### 2. 「人間の基礎的観察探求」 ― 命の初期（胎児期・乳幼児期）と母親の尊厳

- **人生の土台となる「命の初期」：**「人間の基礎的観察探求」とは、人生の基盤が形成される胎児期および乳幼児期の観察と探求を指します。家族生活の研究を核としながら、この基礎的な探求を生涯にわたって継続することを目指しています。
- **母親の尊厳と「ミクロの会話」：**「すべての人間は母から生まれる」という絶対的事実に基づき、命を育む**母親の特権と尊厳**を尊重します。胎児期には母親と生命（細胞）レベルでの「ミクロの会話」が行われ、出生後も母のお腹の記憶、温かなおっぱい、優しさ溢れる肌のぬくもりと声に守られて幼い生命は育ちます。母親の生活・精神環境が乳幼児に与える影響は、人間の想像を超える神秘を秘めています。
- **総合的な学問からの学び：**家族・夫婦・親子とは何かを探求するため、教育や保育の枠にとどまらず、医学、脳生理学、発達心理学、動物行動学、土壌学など、人間に関わるあらゆる学問から学び続けています。

### 3. 人体と精神のネットワーク ― 40 兆個の細胞の共生と「主体」

- **40 兆個の細胞のネットワーク：**「人間＝自分＝人体」とは、約 40 兆個の生命ある細胞が組み合わさった巨大なネットワークです。ひとつひとつの細胞・組織の中で無数の要素が「共生」し、互いに補い合い育み合うことで命が成り立っています。
  - **「主体」と精神の観察探求：**人体は他者と比較できない唯一無二の「主体（自己肯定感の根源）」です。この「命・人体」を基盤としながら、目に見えない「魂・良心・心（記憶・知情意）」といった精神領域の関わり合いや調和を深く観察・探求していきます。
- 

### 4. 家族の参加による「共生」と「共育」

- **命の初期からの体験的な学び：**保護者や家族が日常的に参加することで、胎児期や乳幼児期という「命の初期」にある子どもと触れ合いながら、「自分とは誰か」「人間とは何か」を肌で感じ、体験的に学ぶことが容易になります。
  - **共に育ち合う「共育」：**大人だけが子どもを教え導くのではなく、お互いの存在や違いを認め合い、補い合いながら、子どもと共に大人も育ち合う「共生」と「共育」の実践を深めていきます。
- 

### 5. 「球体的人間」と「球体的思考」 ― 立体的な人間理解

- **固定観念のない乳幼児（球体的人間）：**乳幼児は固定観念が少なく、頭・心・五感の全体を使って世界を捉えています。太陽や地球、太陽系の惑星がすべて「丸（球体）」であるように、乳幼児の心や存在も立体的な「球体」として捉える必要があります。彼らは大人の過去や現在の枠組みにとらわれず、感覚的に未来を見据えて生きています。
- **多角的に人間を理解する「球体的思考」：**人間を深く理解するためには、ひとつの物差しや一方的な視点（平面的観察）で評価するのではなく、様々な角度から観察し、多様な感性や感じ方を重ね合わせる「球体的思考」が不可欠です。多角的な観察と対話を通じてこそ、他者をありのまま受け入れられる真の人間理解が保たれます。

## これからも探求し続ける「人間と生活」の具体的課題

長年の人間観察と「人体実験（自らの生き方を通じた探求）」の中で追い求め続けている「具体的な探求課題」を整理・再構築しました。

---

### 1. 「幼子（乳幼児）」の探求 — 神聖な存在からの学び

- **「幼子を受け入れる者は、神を受け入れたのと同じ」**：乳幼児は大人のような固定観念や偏見を持たず、環境や他者を「あるがまま」に受け入れる純粋な能力を持っています。約60年にわたり、この「神に近い存在」である乳幼児の観察を通して、人間の本質や尊厳を探求し続けています。

### 2. 「自己愛」と「他者尊重」の探求 — 主体の確立と愛の順序

- **「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」**：自分自身を愛し、尊重する（主体の確立）ことができて初めて、他者を心から愛し大切にすることができます。約70年間、自らの人生を通じた「人体実験」としてこの言葉の意味を探求し、生きる喜びや人の心の痛みに共鳴する生き方を追求しています。
- **目指すべき人間像**：トモエの卒園生たちの姿や言葉にも象徴されるように、相手の思いを理解し「その人の思いに合った、自分の思いを表現できる人」、そして「生涯をかけて一人ひとりを大切にできる大人」になれるような生活環境を創り続けています。

### 3. 人体に秘められた「不思議と神秘」の探求 — 40兆個の細胞と精神のネットワーク

- **命の誕生と40兆個の細胞**：精子と卵子の出会いから始まる命の誕生は、言葉を超えた神秘です。人体を形成する約40兆個の細胞がミクロレベルで対話し、互いに補い合っている構造の中に深い気づきを求めています。
- **心と身体（精神と肉体）の深い関係**：目に見えない精神の世界と肉体との関わりを解き明かすため、以下の多面的な関係性を日々観察・探求しています。
  - **脳と心**：記憶や感情の発達と脳の配線の関係
  - **肌と脳**：肌のぬくもりやスキンシップ（愛着）が脳と心に与える影響
  - **良心と心**：内なる「良心」との対話をもたらす心の調和
  - **魂と40兆個の細胞**：魂と肉体の共鳴が生み出す生命の調和

---

#### 4. 人間と自然の融合 — 「自然に勝る教師なし」

- **五感を呼び覚ます大自然：**人生のすべてや人間形成の鍵は大自然の中にあります。森や川などの豊かな自然環境の中で五感をフルに刺激される体験を通して、人間本来の直感や感受性、たくましい生きる力が育まれます。

---

#### 5. 母親と乳幼児の尊厳 — 卒園家族（にじ組）と共に続く「共育」

- **母親と胎児・乳幼児の人間関係：**命を宿し育む母親と胎児・乳幼児との深い関係性に最大級の尊厳と好奇心を持ち、母子が精神的に安定して過ごせる環境を支えています。
- **「にじ組（卒園家族）」と広がる共生のコミュニティ：**トモエでは卒園した家族を「にじ組」と呼び、いつでも帰ってこられる場として門戸を開いています。子どもも大人も、幼稚園という枠を超えて生涯にわたり集い、互いに助け合い、高め合う「共生と共育」の生活を実践し続けます。